

ゆたかの飛耳長目〈第7回〉要旨

日時	令和4年10月4日(火) 午後1時30分～
場所	安曇野市役所共用会議室305
テーマ	安曇野を山岳観光で盛り上げよう
参加者	信州登山案内人 3人

●安曇野を北アルプス南部の入山ルートとしてPR

参加者 一つ目の提案は「ゆっくりと豪華な山旅しませんか 安曇野から憧れの槍穂高連峰に登ろう」というアイデア。堀金の三股登山口を北アルプス南部への入山ルートとしてPRして売り出し、他では真似のできない宝を最大限に活用するというもの。PRポイントは2つある。

一つは蝶ヶ岳からの槍穂高連峰の大パノラマが見られる素晴らしいルートであるということ。北アルプスと聞いてどんな山岳名を思い出すかと言ったら、やはり槍穂高と答える方が大半。憧れの槍ヶ岳への登山を考えたとき、誰もが上高地から入山するものと思いで入り、上高地から入山し、ターミナルから横尾山荘まで平地を3時間ほどかけて行くというのが一般的なルートになっている。横尾山荘は奥穂高岳につながる涸沢方面や槍ヶ岳に行く分岐になっており、さらに蝶ヶ岳にもつながっている。そこで、三股口から登って蝶ヶ岳を通り、槍ヶ岳や奥穂高岳に登る、帰りは横尾山荘に寄ってお風呂に入り、もう1回大パノラマ見て、三股へ降りるというルートを提案したい。距離が伸びることを大変とらえるのではなく「登山をしに来ているお客さんにとっではもう一山楽しめる」という逆転の発想でPRしたらどうか考えた。

もう一つのPRポイントは、焼岳が噴火した場合、唯一のエスケープルートと思われること。2014年には御嶽山の噴火により死者行方不明者63人という大災害が起きており、過去のデータから見ても焼岳は噴火の実績があり、噴火警戒レベルも今年春に2に引き上げられていて、噴火への備えをする必要がある。上高地から入山する場合、松本市が考えているエスケープルートは徳本峠とくごうとうげだが、過去に受けた災害から復旧されておらず、現在は通行不可になっている。近年はゲリラ豪雨や線状降水帯など、風水害の発生リスクが高まっており、谷ルートは水害に弱くリスクが高い。年間通してエスケープルートとして使うためには、尾根ルートの方がいいと考える。そう考えると蝶ヶ岳を越えて三股みつまた登山口に下山するルートが唯一のエスケープルートと思われる。こういった意味で重要なルートであることをPRして、一度は自らの足で歩き、万一に備え覚えておくことが重要、ということのを売りに使えるのではないかと考えている。

登山に来る人は行政エリアに関係なくいろいろな北アルプスの山歩きを楽しみたいという思いで来る。富士山で山梨県側と静岡県側の登山口それぞれが観光PRを繰り広げているように、松本市エリアの山、安曇野市エリアの山というのは関係なく、安曇野が北アルプス南部への第二の

玄関口と言って売り出してほしい。上高地に集中している人流を少しずつでも変え、第二の玄関口として定着させることを目的にして、山好きの皆様を安曇野へ呼び込みたい。

現在は交通の便などの関係で、車やバスで上高地まで行ってそこから登る人が多いが、歴史的に見ると、明治大正の登山ブームの頃、北は大町の野口、真ん中は安曇野の烏川や有明、南は松本の島々谷の三つが槍穂高へのメインの登山口であり、一ノ^{いちの}模^{また}ルートは槍ヶ岳を目指した播隆上人やウエストンも通った主流ルートだった。また、槍ヶ岳登頂の歴史をたどると、播隆上人は1828年に登頂していて、近代登山の父と言われるウエストンは1892年に登っている。ウエストンは上高地にレリーフがあり称えられているが、播隆上人は松本駅前にブロンズがあるだけ。本当は播隆上人をガイドした中田又重をセットにして作ろうとしていたが、作者の小川体系が制作中に亡くなってしまい、実現しなかった。ウエストンの歩いた道をたどるというように、播隆上人と三郷小倉村の名ガイド中田又重の案内した道をたどるといった企画もよいのではと思う。

関連して、パロディやダジャレなどのユーモアと歴史の要素を取り入れた安曇野市エリアの山岳マップを作り、名所を巡る仕掛けやイベントを企画してみてもどうか。実際、安曇野市山岳観光推進実行委員会と山と溪谷社が作成した『信州・安曇野 北アルプスパノラマ銀座マップ』を三股口で配らせてもらったが、とても評判いい。これを面白くした感じで、例えば常念から大天井に行く途中は「思わずスキップシャンゼリゼ通り」とか、鍋冠から大滝に行くルートは三郷小倉村の又重が播隆上人を案内して槍ヶ岳を開山した道だとか、一の沢ルートはウエストンが山口家に泊まって通った道だとか、そういった面白さと歴史を織り交ぜたマップ作ったらどうか。

また、よく美術館にあるような、名所や歴史を紹介するカードを作るのも一つの案。例えば、「北アルプスのモナリザの微笑み」というカードに記載された地点へ行ってみると小林喜作のレリーフがあり、そこに「小林喜作は穂高牧出身の猟師で、この道を作った人でもある」といった説明書きがあって、歴史の勉強になる。他にも、ゴジラみたいに見える話題の木があるので、それをカードにし、こんな面白いところがあると紹介するなど。スマホをかざすと詳しい説明が読める、といった仕掛けもできる。歴史を紐解き先人の偉業を検証することが後世の人間の使命でもあるので、山岳に関連する郷土ゆかりの人物たちを取り上げた歴史講演会を開催したり、かつて播隆上人やウエストンが通った山道を訪ねるガイドを開催したりするなど、歴史に結び付けた企画をするのも山岳観光を盛り上げていくために有効な手だと思う。

市長 とにかく膨大な提案で全てに答えることはなかなか難しいが、情報を整理して提案のあったルートを復活させるというのは面白い。新田次郎の小説『槍ヶ岳開山』は明らかに安曇野から登る描写になっているし、須砂渡食堂の前にウエストンのレリーフがある。安曇野のウエストン祭も開催された記憶がある。

参加者 結構熱心に取り組まれていた。

市長 上高地のウエストン祭には参加したことがあるが、少しやり方を変えて安曇野でもウエストン祭を開催してもいいと思う。播隆上人とウエストンはそれぞれ目的が違うが、どちらも北アルプスの先駆者の代表者で安曇野に縁がある。

- 参加者 播隆上人も自分一人では登頂できなかったのも、又重の果たした役割が大きい。松本駅前には播隆上人の像があるので、安曇野市は播隆上人を案内した又重のブロンズ像を作ってみてもいいんじゃないか。
- 市長 登山する人から見て面白いと思うか。
- 職員 三股口からのルートで行くと上高地と違ってすぐ登れるというのは魅力的。
- 参加者 上高地はマイカー規制やトンネルの時間規制があって入山に時間がかかり、上高地の観光客も一緒になるため、好きな時にすぐに入山できるわけではなく早く登りたくても登れない。このルートを紹介すると興味を持つ人もいるので、検討する価値はあると思う。ピークエンドの法則で、最後にもう1回蝶ヶ岳からの絶景パノラマを見て帰れば、リピーターになるのではないか。
- 市長 実際安曇野から登る人はどのくらいいるのか。
- 参加者 データがないので読めないが、恐らく、車の問題がなければ三股口から蝶ヶ岳に登ってきて最後は上高地に下山するという人もいる。
- 市長 提案のあった三股口からのルートは普段歩いているか。
- 参加者 メジャーなルートではない。
- 参加者 蝶ヶ岳から横尾山荘に行くルートは危険なところが全く無く、女子高校のガイドも何回か行っている。徳沢、上高地に降りるにも登りが1か所あるぐらいで難易度は易しい。
- 参加者 今、大滝山へ抜ける冷沢から鍋冠山を通るルートを歩く人が結構いて、すれ違うことがあるし、大滝山荘で泊ってほりで一ゆ〜まで歩いて降りるようなマニアックな人もいる。
- 参加者 蝶ヶ岳の頂上から大滝山までは1時間半ぐらいで、実際歩いたが人がいない。普通登山に行くすれ違う時によく挨拶をするが、その必要が無いのが魅力と言う人もいる。静かで誰も行き会わないことが人気なので、それも一つの売りだと思う。
- 市長 ぜひ元気のある人に現地調査していただきたい。播隆上人が登り、ウエトンまで登っていればこちらのルートが表と言える。ストーリー性を考えて、なぜ安曇野から登ることが素晴らしいかということを知りたい。焼岳の噴火に備えたエスケープルートという話はあったが、そのために1回通ってみましょうというのは正直なかなかハードルが高い。むしろ山岳マップの延長線だと面白いと思う。とりあえず、来年すぐには言わないが、安曇野のウエトン祭を開催してみてもいい気はする。少しずつできることから着実に周りから固めた方がいい。本日出たような話を精査し、歴史があって播隆上人やウエトン、小林喜作の歴史や新田次郎の小説での記述といった話を詰めてストーリーを作り、どう打ち出すを練る必要がある。整理してどんな順番で手をつけていくか考える時間をいただきたい。またご相談する。

●山岳観光の拠点を市内に

参加者 2つ目の提案は、「北アルプスへの第2の玄関口にふさわしい山岳観光の拠点を市内に作る」というもの。中身として提案する機能は7つあり、場所としてはスイス村に作ったらどうかと考えている。

1つ目は登山者のための駐車場。現在各登山口ではとにかく車を置くところがないので、駐車場問題を解決するため、また自然環境保護のために、登山者の駐車スペースを設け、何らかの輸送手段を作って登山口まで送り迎えをしてはどうか。

2つ目は登山に関するあらゆる相談ができる総合相談センター機能。登山について相談したい、ガイドをお願いしたいとなると、通常個人で探して対価を払って依頼するが、そこで無料で相談ができ、ガイドを探せると便利。また外国人の方も相談できるよう通訳にも対応し、観光客の相談にももの。さらにガイドの中には山岳遭難防止対策協会の救助隊もやっている方がいるので、遭難救助活動の相談も併せて受けられると思う。また、現在はそれぞれの山小屋で直接予約の電話を受けているが、1ヶ所でまとめて受け付ければ山小屋も助かるのではないかと思う。

3つ目はアウトドアショップ。今白馬にはアウトドアショップがいくつか出店しているが、点々としていてめぐるのが大変なため、テナントとしてショップが1ヶ所に集合した拠点があると良い。4つ目は飲食店。安曇野とゆかりのある中村屋の店舗を誘致し、安曇野の歴史を学べるようにしたい。5つ目は安曇野のエリアの山小屋のオリジナルグッズの販売。山でお土産を買おうと思ってもザックに詰めこむことが大変なので、本当は山小屋でしか買えないが、ここ限定で購入できるといったことがあるといい。6つ目はボルダリングやクライミングができる施設。オリンピック種目でもあり今盛んになっているが、近場には体験する施設がないため、この拠点に併設し、体験や指導ができるようにしたらどうか。7つ目は高速バスの発着口。現在新宿などの都市部から登山口に向けて直行バスが来ているので、その発着口を拠点に持ってきたら便利と考える。

市長 山岳に関連した動きがあまりバラバラになってはいけませんが、市がコントロールできるのは市有の施設のみで、他はそれぞれの判断にゆだねられる。スイス村は所有者がどう考えているかが重要で、情報交換をさせていただきながら、安曇野にとって有効な活用につなげていければと思う。駐車場が足りないという話はよく聞く。

参加者 シーズン中はどこもいっぱい車を置くところがなく、路上駐車も多い。平地に駐車場があり、そこからタクシーでピストンができればいいのではないか。例えばスイス村のサンモリッツの方は大きなイベント等がなければ空いているため、駐車場として活用できるのではないか。中房は温泉地があるため規制はできないが、一の沢・三股に関しては手前の方に温泉があるため、登山口につながる部分は上高地のように規制してもいいのではと思っている。

市長 乗鞍や上高地のバス規制に関わった経験があるが、調整がなかなか大変で時間をかけて行った。穂高神社奥宮は明神池にあるし、奥穂高岳の頂上には峰宮というのがあって、宮司は1

年に1回登っている。このように安曇野にも縁があるので、なにかしら生かしていければと思っている。

課長 現在、市では駐車場の渋滞情報がスマホで確認できるような仕組みがあればと研究している。混雑状況によっては下の駐車場を使う、といった判断が事前にできれば、停められずに残念な思いをせずに済む。

参加者 前常念にある石室について、北アルプス南部で現存して実際に使える石室はこれだけ。しかも当時長野県が各地に石室を作ったが、その県の計画にはなかったことから、佐藤嘉市が旧堀金烏川村の中で募金集めて独断で作ったもの。貴重な大切なものなので直してほしい。

課長 以前話をいただき、現在の状況を確認するため、ちょうど今日登っている。石室は去年文化課が文化財として候補調査のため行った経過もある。

参加者 石積みが崩れて入り口のドアが、窓を堀金登山案内人組合で2回ぐらい直している。ある程度耐久性があるもので形にしてもらった方がいい。